

2023年12月4日

## アジア宗教者平和会議 (ACRP)

### COP28 に向けた緊急声明

(日本語訳)

今、198 カ国・地域の首脳らが地球温暖化対策を話し合う国連気候変動枠組条約第 28 回締約国会議 (COP 28) が UAE のドバイで開催されている。ここでの最大の焦点は、世界の平均気温の上昇幅を産業革命前と比べて 1.5 度に抑える国際目標の達成に向けた具体的な道筋をつけることである。この 1.5 度という閾値を超えると、人間、野生生物、生態系が被る気候変動の影響ははるかに過酷なものになるとの懸念が生じるからである。

しかし、現在の地表の平均気温は、1800 年代後半に比べてすでに 1.1 度上昇しており、1.1 度の閾値に近づきつつある。また本年 11 月 17 日、一時的ではあるが気温上昇は 2 度を超えたとの報告がある。世界は、今、前例のない地球温暖化が取り返しのつかない破滅的な影響を地球に及ぼしつつあるのである。

世界の平均気温が史上最高を更新した今年、地球沸騰化とも呼ばれる異常な高温やその影響が各地で起こった。カナダでは大規模な山火事が頻発し、ブラジルのアマゾンでは異常な干ばつが発生した。リビアでは洪水が甚大な被害をもたらした。世界人口の 4 割以上が、気候変動の被害を受けやすい環境下で生活し、アジア、アフリカなどで悪影響が深刻となっている。気候変動は、より貧しく脆弱な地域の人々に強い影響を及ぼしている。

12 月 1 日、COP 28 において、世界の温暖化対策の進捗を評価し、各国に対策強化を促す「グローバル・ストックテイク」に関する文書が公表された。それによれば、このままの対策では、1.5 度目標は達成できないと明確に指摘し、今後 10 年間の気候危機に備え、緊急の行動と社会の全レベルでの支援が必要だと呼びかけた。国連のアントニオ・グテーレス事務総長は、「地球のバイタルサインは破綻しつつある」と各国の温暖化対策の遅れに強い危機感を示した。しかしながら、現在の COP28 の議論において、各国の化石燃料を巡る考え方の違いも浮き彫りになり、温暖化対策で鍵となる化石燃料の段階的廃止・削減に合意できるか見通せない状況が続いている。

まさに COP28 が行われている今、私たちアジアの宗教者は、現在の気候危機に対する深い憂慮を示し、地球と人類の持続可能性に向けて、世界の政治指導者に対する切なる要望を以下の通り表明する。

- ・世界の気候変動対策は、軌道から大きく外れている。政治的なかけ声だけでなく、いつ誰がどんな削減策を実施するかを具体的に示し、対策を実効性のあるものにする事。
- ・各国は、偏狭な自国中心主義や過剰な利益追求主義を棄て、人類全体の共通利益のために団結をすること。
- ・昨年の二酸化炭素排出量は過去最高を更新した。各国は、2030年までに19年比で48%の排出量を削減するために、より野心的な削減目標を設定すること。
- ・気候危機は様々な次元において人権問題である。各国、特に先進国は、気候変動によって被害を被る人々に対する、より実行的な支援を確約し、強化すること。
- ・気候変動の結果、懸念が高まっており、すべての国が自国民の食料安全保障を確保しなければならない。

私たちは、ACRP は、COP28 の政治指導者とともに持続可能な世界の実現に対する責務を果たす決意である。私たちは第9回 ACRP 大会（2021年）において、宗教コミュニティの社会的責任を再認識し、「誰一人取り残さない」世界の実現に向けて、地球上のすべての生命の共同体を共同で構築し、クリーンな世界を将来の世代に残すことを誓い合った。

私たちは、2023年11月7日に発表された「COP28 に向けてのアブダビ宗教間声明」における「1.5°Cを達成可能な範囲にとどめ、影響を受けた脆弱なコミュニティに貢献するための変革的行動への呼びかけ」に賛同する。ACRP は、世界の宗教指導者とともに、COP28 が真に地球と人類の持続可能性を高める有益な契機となるよう、心から祈りを捧げ、かつ私たち自身の平和に対する責務を果たすべく、たゆまず行動するとの誓いを新たにしている。